

平成12年度実施内容

1, 植生調査

(1) かきおこし区

前年調査と同様アカメガシワ・クサギ・ススキ等が繁茂している。しかし、アラカシ・キハダ等の有用広葉樹が、僅かではあるが発生している。

(2) 播種区

イチイガシ・ツブラジイの稚樹が僅かに確認できた。

(3) ぼう芽, 天然下種更新区

アラカシ・イスノキ・キハダ・マツ等の実生及びぼう芽を確認できた。

考察

アカメガシワ・クサギ・カラスザンショウ等の先駆性樹種が繁茂し有用樹の発生が困難な状況である。

平成13年度実施内容

1, 試験地調査

平成14年1月調査(野帳別途保管)

人工数: 3,000人

播種区で、アオキの稚樹を確認した。

地掻き区では、稚樹の発生は確認出来なかった。

ぼう芽区で、キハダ・イヌガシ・ヒサカキ・イイギリ・タブ・アオキ・マツを確認した。

考察

全体的に、アカメガシワ・カラスザンショウ・クサギ等の先駆性樹種(夏木)が繁茂し、有用樹の発生が非常に少ない現状にある。

今後、先駆性樹種が繁茂した後、有用樹がしだいに発生して来ると考えます。

平成14年度実施内容

1, 試験地調査

平成14年12月調査(野帳別途保管)

人工数: 2,000人

播種区で、ヤブニッケイの稚樹を確認した。

地掻き区では、ネズミモチの稚樹を確認した。

ぼう芽区で、キハダ・イヌガシ・ヒサカキ・イイギリ・タブ・アオキ・マツを確認した。

考察

全体的に、アカメガシワ・カラスザンショウ・クサギ等の先駆性樹種(夏木)が繁茂し、有用樹の発生が非常に少ない現状にある。

今後、先駆性樹種が繁茂した後、有用樹がしだいに発生して来ると考えます。

13年度と同じで、各プロットとも稚樹の発生は非常に少ない。

平成15年度実施内容

1, 試験地調査

平成15年11月調査(野帳別途保管)

人工数: 4,000人

播種区で、アオキ、シダモ、ネズミモチ、ムラサキキブ、ヤマザクラの稚樹を確認した。

地掻き区で、ニトコ、ネズミモチ、タブノキ、ムラサキキブの稚樹を確認した。

ぼう芽区で、ヒサキ、イヌガシ、クサギ、キハダ、イイギリ、タブノキ、ムラサキキブ、アカマツ、カナヅキを確認した。

考察

全体的に、アカメガシワ・カラスザンショウ・クサギ等の先駆性樹種(夏木)が繁茂し、有用樹の発生が非常に少ない現状にある。今後、先駆性樹種が繁茂した後、有用樹がしだいに発生して来ると考えます。14年度と同じで、各プロットとも稚樹の発生は非常に少ない。

状況記録写真

区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



播種区A アオキ(36) H15.11.21



播種区A シロダモ(10) H15.11.21



播種区A ネズミモチ(15) H15.11.21



播種区A H15.11.21

状況記録写真

区分 自主

森林技術センター

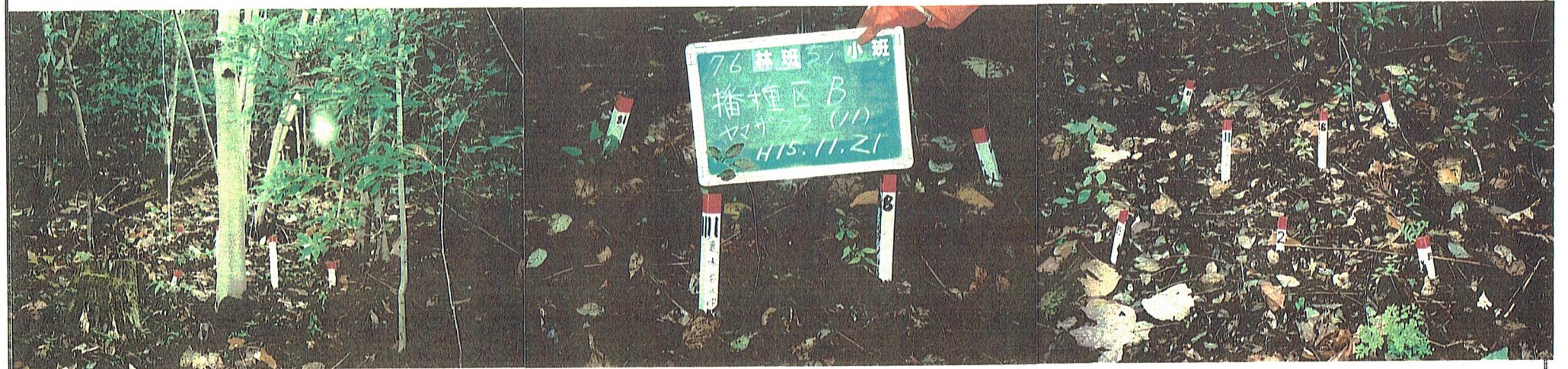
(様式6)



播種区 A H15.11/21

播種区 B ムラサキシキブ (2) H15.11/21

播種区 B ムラサキシキブ (2) H15.11/21



播種区 A H15.11/21

播種区 B ヤマザクラ (11) H15.11/21

播種区 B H15.11/21

状況記録写真

区分 自主

森林技術センター

(様式6)



播種区B H15.11/21

播種区C アオキ(5) H15.11/21

播種区C H15.11/21



播種区B H15.11/21

播種区C H15.11/21

状況記録写真

区分	自主
----	----

森林技術センター

(様式6)



地かき区 A ニワトコ (84) 4/15. 11/21



地かき区 A
15. 11/21



地かき区 A 4/15. 11/21 撮影



地かき区 B 4/15. 11/21 撮影